

SHIBUYA CITIZENS' UNIVERSITY

令和8年度 渋谷区民大学講座

後援：渋谷区

本事業は「Shibuya Social Action Partner (S-SAP) 協定」に基づき、
教育・生涯学習に係る支援の一環として実施するものです。

「見た目は大事」なのか？ ルッキズムについて考える

DATE

2026

11.28

SAT

TIME

14:30 – 16:00

90分 / 会場受講



VENUE

國學院大學渋谷キャンパス
総合学修館 地下1階 6B13教室

自分の見た目に悩んだことはありますか？ 身体の成長や加齢に伴う悩み、性に関する悩み、容姿へのコンプレックス、人とは違う見た目への悩み……。こうした悩みはどれも、「個人的な悩み」だと考えられがちです。しかし、電車やスマホには脱毛や美容整形やダイエットの広告が並び、老若男女問わず「見た目」への不安をあおるような情報にさらされ続けています。このような「ルッキズム社会」で、一人一人が「自分の身体を生きていく」ために、どのような視点や洞察が必要となってくるのでしょうか？ 本講座では、哲学倫理学、とりわけフェミニスト現象学という知見をもとに、「ルッキズム」の問題はどこにあるのか、ルッキズム社会で「自分の身体を生きる」とはどのようなことかを参加者と一緒に考えることを試みます。



講師

小手川 正二郎

國學院大學 文学部 哲学科 教授

1983年、東京生まれ。慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程修了。博士（哲学）。フランス近現代哲学、現象学を専攻。近年は、性差別や人種差別、親子関係や難民をめぐる社会問題に哲学的観点から取り組んでいる。著書に『現実を解きほぐすための哲学』（トランスビュー）、『甦るレヴィナス』（水声社）、共著に『フェミニスト現象学入門』『フェミニスト現象学』（共にナカニシヤ出版）、『ジェンダーとLGBTQの哲学』（丸善出版）、共訳書にヘレン・ンゴ『人種差別的習慣』（青土社）などがある。WebメディアDialogue for Peopleから動画シリーズ「感情と対話の哲学」と「親子をときほぐす」を配信中。

申込締切

APPLICATION DEADLINE

11.13 FRI

受講料

一般

3,000円

渋谷区民

2,000円

定員 100名（先着順）



QRコードから申込

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學